

金権腐敗
経済無策
「戦争国家」づくり

自民党政治を終わらせて

新しい政治を切り開く

草の根で国民と結びつく 全国の経験に感銘

“日本共産党第29回大会に参加してきました。”

よしまた県議の手記を紹介します

今年1月15日から18日まで開催された日本共産党第29回大会に、評議員として参加してきました。青森に帰ってきた翌日、県庁で出会った他党議員から、「さわやかなイメージになりますね」と声をかけられました。新しい委員長に田村智子さん、副議長(書記局長代理)と政策委員長に40代、30代の方が就任するという新しい指導部となりました。

社会を一步一步よくするために 国民とともに——全国の努力に学ぶ

全国大会では、全国から集まった党員が、地道に真面目に地域に根差して国民と対話をひろげて奮闘している姿が語られました。社会を変える主人公である国民とともに社会を変えていく働きかけが広がっています。私たちはこれを「多数者革命」

と呼んでいます。日本列島の隅々から、社会をかえる根本の力の息吹を感じてきました。

大会一日目には党石川県委員長から、「能登で生きていける希望を」と発言があり、能登半島地震の復興・復旧を誓う場となりました。ウクライナ戦争やガザ攻撃など、暴力の連鎖が危惧される世界のなか、ASEANの平和秩序に注目し、世界の主流と逆流を明らかにしました。資本主義を乗り越える未来社会の特質を「人間の自由」という角度で明らかにしたことも、新鮮な感動を覚えました。裏金疑惑をスクープした「しんぶん赤旗」の値打ちも語られ、自民党の金権政治の底深さも感じ、「自民党政治を終わらせる新しい政治を」という決意を固めてきました。まずは高橋ちづ子衆議院議員の議席がかかる総選挙です。

「理も情もある大会決議」(志位議長)を練り上げて決定

日本共産党の大会の開催方法は、他党とかなり違っていています。私たちは「議員が主役」の立場をとりません。党員一人ひとり是对等ですし、選挙で選ばれた代議員によって大会が開かれます。私たちは、政治・組織方針の中身を練り上げることを大事にしています。「党首を選んで、あとは党首にお任せ」というのでは、集団



党大会会場入り口で記念撮影。右から、高橋ちづ子衆議院議員、さいとうみお党東青地区委員長(衆院青森1区予定候補)、よしまた県議=1月17日、熱海市

の英知は発揮できません。討議のなかでは、異論も含めて自由に議論し、文書としても公開されることが保証されます。こういう討議を経て、大会決議が決まりました。「みんなで決めたことは、みんなで実行する」という民主集中制の姿を示した大会にもなりました。

大局をみすえて一步一步—— 新しい日本へ全力つくす決意

熱海市の山奥にある大会会場まで歩く毎日の「山登り」は毎回の恒例となっています。日頃の運動不足がたたって最初はきつかったんですがだんだんと慣れました。「山の上」をめざすには、足元を一步一步踏みしめるだけではなく、ゴールを見据えることも大事だということを感じてきました。きっと日本の社会変革も同じなんだと思います。社会を変える大きな展望をみすえつつ、一步一步、地道に着実に。世直しの大運動へがんばります。

大会会場に向かう「山登り」の様子が、「しんぶん赤旗」(1月30日付)に掲載されました。



視察報告

よしまた県議は 1 月以降、視察や要望活動が続きました。
下記に報告します。

1/28

縄文遺跡群 世界遺産登録 記念フォーラム (東京)

「縄文のはじまりと終わり」をテーマに

青森県などが参加する「縄文遺跡群世界遺産本部」が主催し、縄文フォーラムが開催。東京大学の根岸洋准教授による講演やパネルディスカッションなどが行われました。外ヶ浜町の大平山元遺跡の発掘状況なども報告

されました。パネルディスカッションでは、縄文時代に戦争がなかったことが話題に。よしまた県議は、「人類の最初の文化には、『戦争のない1万年』の歴史が刻まれていることに感銘を受けました」と語っています。



1/29

自治体問題研究会の地方議員政策セミナー 自治体財政と介護保険について

自治体問題研究会が東京で開催したセミナーに、よしまた県議は参加しました。公務の都合で1日のみ参加しました。

第一講義は、立命館大学の森裕之教授が、自治体財政の仕組みの基本と新年度政府予算案の概要とポイントを解説しました。このなかで森氏は、軍事費が文教費を上回る状況にま

でなっていることを批判しました。

第二講義は、大阪社会保障推進協議会の日下部雅喜氏が講演。介護保険制度の見直しのなかで、利用料2割負担は見送られたものの、次の改定で実現が狙われていることを告発。地方から介護保険を守るたたかいを呼びかけました。



2/6

商工労働観光エネルギー常任委員会で要望活動 物価高騰対策などを要望

経済産業省や県選出国會議員などに

よしまた県議は常任委員会の一員として要望活動に参加しました。高橋ちづ子衆議院議員(代理)にも要望を行いました。

1/30

~ 1/31

県議会議会運営委員会 議会のデジタル化にどうとりくむか 福島県議会と埼玉県議会を訪問

議会運営委員会の視察で、デジタル化にとりくんでいる福島県議会と埼玉県議会を訪問しました。よしまた県議はオブザーバーとして参加しました。両県議会は配布資料のペーパーレス化にそれぞれの

手法でとりくんでいます。青森県議会でも今後、デジタル化がとりくめるように検討されています。

埼玉県議会の傍聴席には、特別の育児スペースがあり、授乳しながらでも議会傍聴ができる個室となっていました。



「新時代」と「旧時代」の綱引きを決めるのは県民世論

県民運動と議会論戦で、「県民主役」の県政めざす

2月10日、議会報告会を開催しました。よしまた県議は宮下県政について、「子育て費用の無償化など前向きな側面とともに、原発・核燃問題

よしまた県議が議会報告会

では『旧時代』を引きずっている印象もある」と指摘した上で、ジェンダー平等、病院統合、原子力防災などについて報告しました。

